

富士見市立考古館開館 50 周年  
資料館友の会発足 40 周年記念展示

令和5年度秋季企画展

# 資料館活動団体 作品展



後期

手織りの会 / 美楽の会 / 藍染めの会  
扇だこ保存会 / ほうき作り伝承会  
難波田城いきものがかり

令和 5 年 11 月 18 日 (土)

▶ 令和 6 年 1 月 8 日 (祝)

富士見市立難波田城資料館

2023.11

# 作品展開催にあたり

本作品展は、市立資料館の前身である市立考古館の設置 50 周年と資料館友の会設立 40 周年を記念し、長年資料館で活動している団体の成果を一同に紹介するものです。

難波田城公園は、計画段階から、地元住民の皆様や考古館友の会より、市民の力を生かした運営を提案され、その中から難波田城公園活用推進協議会や市民学芸員制度が生まれました。オープン後も、体験学習事業の展開の中から、いくつもの団体が誕生しました。

園内の古民家では、各団体が日替わりで、伝統的生活文化の学習活動を展開しています。公開された場での活動は、古民家を生きいきした存在とし、来園者との交流も生まれています。さらに、当館を拠点とする団体は市内の文化財の調査と普及にもつとめ、市内に伝えられた伝統工芸の保存・継承にも取り組んでいます。また、今年 6 月には文化財保存全国協議会の第 24 回和島誠一賞を資料館友の会が受賞し、長年の活動が評価されました。

今回の作品展は、それらの活動を紹介するために企画しました。ご協力いただきました各団体に感謝申し上げます。

地域に開かれた学習活動がますます盛んとなり、難波田城公園・資料館が「ふるさと富士見」を学ぶ場として、今後、さらに発展することを祈念いたします。

難波田城資料館長

\* 作品展は、会場の制約により、2 期に分けて開催します。

前期：資料館友の会所属団体 後期：その他の団体

## 難波田城公園・資料館と協力団体の年表

- 昭和 3(1928) 難波田氏館跡が県史跡指定
- 昭和36(1961) 難波田氏館跡が県旧跡に指定変更
- 昭和48(1973) 富士見市立考古館開館（南畑公民館敷地）
- 昭和56(1981) 現・拓本部会が活動開始
- 昭和57(1982) 現・土器づくり部会が活動開始
- 昭和58(1983) 考古館友の会発足
- 昭和60(1985) 現・木綿部会が活動開始
- 昭和63(1988) 現・竹かご部会が活動開始
- 平成 6(1994) 水子貝塚公園開園／富士見市歴史の広場条例施行
- 平成 9(1997) 難波田城跡歴史公園整備工事着工（3カ年継続事業）
- 平成10(1998) 難波田城跡歴史公園開設準備室設置／考古館が水子貝塚に移転  
難波田城公園活用推進協議会発足
- 平成11(1999) 市民学芸員養成講座開始
- 平成12(2000) **難波田城公園・難波田城資料館オープン**  
富士見市立資料館条例施行。考古館は水子貝塚資料館に改称  
市民学芸員制度開始／ふじみ手織りの会発足
- 平成13(2001) 国土交通省「手づくり郷土賞ふるさと(地域整備部門)」を受賞
- 平成14(2002) 「ちょこっと体験」開始  
ふるさと探訪部会発足
- 平成15(2003) 古文書の会発足／いなほの会発足
- 平成16(2004) まんじゅうの会発足。田舎まんじゅう販売開始
- 平成17(2005) 美楽の会発足
- 平成19(2007) 田舎うどんの会発足。お月見亭開始
- 平成22(2010) 開園10周年。イメージキャラクター“なんばった”制定
- 平成23(2011) 東日本大震災により難波田城公園まつり中止
- 平成27(2015) 開園15周年記念事業“秋のなんばったまつり”と作品展
- 平成28(2016) 扇だこ愛好会発足／難波田城いきものがかり発足
- 平成30(2018) 駐日セルビア大使が火縄銃演武に参加／入館者100万人達成
- 令和元(2019) ほうき作り伝承会発足／扇だこ愛好会が扇だこ保存会に合流
- 令和 2(2020) 開園20周年記念事業  
新型コロナ感染症対策で臨時休館・難波田城公園まつり中止
- 令和 3(2021) 藍染めの会発足  
新型コロナ感染症対策で難波田城公園まつり中止
- 令和 4(2022) 新型コロナ感染症対策で難波田城公園まつりを10月に延期
- 令和 5(2023) 資料館友の会が文化財保存全国協議会の第24回和島誠一賞受賞  
市立考古館設置50周年記念事業  
資料館友の会設立40周年記念事業

## ふじみ手織りの会

会の成り立ちとこれまで

ふじみ手織りの会は、難波田城資料館が開館した年の機織り教室(木綿部会さんが指導)の後に発足致しました。資料館から“土日に活動する機織りサークルを作りませんか”との勧めがあり、機織り教室で織りに興味を持った希望者6名が賛同したのです。

はじめに会の方向性を決めるため、清瀬市と川越市の博物館で活動している機織りサークルを見学に行きました。そして、会員が少しずつ勉強しながら皆で「裂き織り」作品を作ろうということになりました。

しかし、皆、機織りは初心者で、教室で糸巻き・整経・機上げを体験しただけなので、織りに関する習得は出来ておりません。そこで再度、木綿部会さんに丁寧に教えて頂き、あれやこれやと四苦八苦しなながら、習得していきました。

今では、自分たちで教室を開催出来るまでになりました。

2008年には、ふじみ手織りの会独自で、作品展を開催し、多くの方々に足を運んで頂きました。

### 現在の活動

活動日は、月2回で第1、第2土曜日に旧大澤家住宅で活動しています。

布を細く裂いて緯糸にし、織って1枚の布



ふじみ手織の会の作品展(平成20年。特別展示室)

にします。布の太さや織る時の力の入れ具合等、経糸とのコラボで、いろいろな表情になり、おもしろいものです。織り上がった布を、ポーチやバックに仕立てて楽しんでます。

毎月のちょこっと体験、難波田城公園まつり時のはたおり体験、また2年に1度、さき織り教室に協力しております。

現在の会員は3名です。只今会員を募集中です。メンバーも年を重ねて来ましたので、ぜひ若い方の入会をお待ちしております。一緒に裂き織りを楽しみませんか。

### これから

時間の許す限り、裂き織り展等に出かけて、織りについてもっと知識を高めながら、活動していきたいと思えます。



裂き布を横糸として通す  
(令和元年度さきおり教室)



会員の作品

## 会の成り立ちとこれまで

今から十数年前、現在の会員の一人が知り合い数人に“布ぞうり作り”を教えることになりました。難波田城資料館に相談すると、文化的な活動を行っている市内の団体であれば、古民家を使わせてもらえるとのことでした。「それならば…」と、サークルを結成することにしました。5人からのスタートが十数人になり、会に名が付けました。「美楽の会」の始まりです。平成17年のことでした。

月に1回、旧金子家住宅に集まり、布ぞうりを作ってきました。数年経ち、全員が布ぞうりを作れるようになったので、今度は手芸品を作るようになりました。着なくなった着物や洋服の生地を使い、バッグやベストなどを縫います。

平成23年度から25年度までは年に1回、資料館主催の「思い出の布で〇〇作り」で指導者として協力しました。対象は大人で、人気の事業でした。手縫いでバッグ・イン・バッグや小物入れなどを作りました。

平成26年度からは対象を子ども（小中学生）に絞った「子ども裁縫教室」に協力するようになりました。

## 現在の活動

今も月1回(第1水曜日)の活動で、手縫いの作品を作っています。針箱の数だけ、それぞれ作る物が違い、会員皆で教え合います。



平成30年度子ども裁縫教室見本  
巾着袋(左)とショルダーバッグ(右)



子ども裁縫教室で指導する会員



裁縫教室で作った作品を手に

8月には「子ども裁縫教室」があります。毎年会員で何を作ってもらおうか話し合います。令和5年は「巾着袋」や「ペンケース」等でした。出来上がった作品を手に、迎えに見えたお母さんに見せる姿が微笑ましく、会員皆で「よかったね」と思うひとときです。

また、年に1回、自分たちで手打ちうどんやコンニャクなどを作って食べる“ごくろうさま会”も恒例となりました。

## これから

これからも手仕事の楽しさが伝わるよう活動していきたいと思っております。



令和5年度子ども裁縫教室見本  
巾着袋(左)とペンケース(右)

## 富士見市扇だこ保存会

### 会の成り立ちとこれまで

富士見市の扇だこは、幕末から明治初年にかけて上沢の大曾根龍蔵氏が始めたと伝えられています。当時は武蔵野一带に広く普及していましたが昭和に入ると次第に衰退し、作り方も消滅したと思われていました。昭和47年(1972)に扇愛好家が第3代の技術伝承者「大曾根勝男」氏を探し出し、昭和51年に南畑公民館で「扇だこ講習会」を行いました。これをきっかけとして昭和52年4月に「富士見市扇だこ保存会」が結成され、郷土民芸として扇だこが復活しました。しかし近年に至り、保存会は会員の高齢化によって休眠に近い状態に至っていました。一方、難波田城資料館で平成24年度から開催している「扇だこ講習会」の受講生有志によって平成28年に「扇だこ愛好会」が設立されました。前述の状況を踏まえ、令和元年に「保存会」と「愛好会」は合体し、「富士見市扇だこ保存会」として再出発を致しました。

### 現在の活動

扇だこ保存会は、「富士見市郷土民芸の扇だこの製作技術を継承し保存して行く事」を目的としています。

現在、会員は男性5名女性2名の7名です。旧金子家住宅を会場にし、毎月第1土曜日の9時30分から12時まで定例会を行っています。4月から翌年3月までの1年間で、



扇だこの絵画きを行う会員の風景

- ①竹の採集 ②竹骨の作成 ③竹骨の組立
- ④凧の紙貼り ⑤凧の絵画き ⑥凧の糸付け
- ⑦凧揚げ会 の各工程を行い、会員各自が思いおもいに独自の作品を造っています。

扇だこは扇の形をしているので「末広がり」の縁起良い形をしています。凧の左右に「風袋」を持っているので、弱い風でもゆらゆらりと揚がるのが特徴です。

扇だこ作りは、初めて作る人にはちょっと難しいところも有りますが、初心者の方には会員が和気あいあいと手取り足取り教えていますから、一年の内には一人で作れる様になっています。お正月の凧揚げ会で、自分で作った扇だこを寒風の中で夢中に揚げている姿は、皆童心に返ったようでした。

令和元年度は「富士見ふるさと祭り」に参加し、中央図書館ホールで会員作品の展示と扇だこの製作実演を行いました。



中央図書館ホール展示設営の会員有志



中央図書館ホール会員作品の展示

### これから

現在の会員も高齢化しつつ有りますが、「富士見市の郷土民芸の技術を末永く伝承しよう」と励んでいます。若い人の会員加入を強く期待しているところです。

## 難波田城いきものがかり

### 市民の熱い要望に応じて誕生

市民学芸員は、資料館のイベントの手伝いやガイドが基本ですが「花壇整備」「畑作業」など、いきものに関する活動も有志が行っていました。それを見ていた畑作業の好きな常連の親子から「私達も手伝いたい」との要望がありました。資料館と市民学芸員の有志で話し合い、「難波田城公園の応援団」として、市民と市民学芸員の有志により平成 28 年(2016)4 月に発足しました。



いきものがかりのスタート地点の一つ 井戸脇の花壇

### 現在の活動(地元にこだわる活動)

私たちは現在、年間を通じて資料館より「田畑の動態展示」の協力依頼を受けています。公園内は、かつてのこの地域の景観を再現し、田畑での作業風景を来園者に見ていただくことを動態展示と資料館は位置づけており、私たちはその作業を行っています。

例えば、**長屋門前の畑では季節にあわせて野菜を栽培しています。**これらの野菜は、資料館のイベント(夏休み古民家宿泊体験・田んぼ体験隊「餅つき」)等に提供されています。

他に田んぼでは二毛作の再現として資料館が主催している**麦づくり体験**への協力を行うなどしています。

また、かつての有り様を再現していく一つとして、**地元の在来品種の栽培**も行っています。これらは墓地横の畑、または公園隣接地の畑を使用しています。例えば、ホウキの材料「ホウキモロコシ」や、和棉めんの一種の「埼玉棉」などです。



麦づくり体験「脱穀」の様子

ホウキモロコシの栽培は、そこからさらに発展し、平成 30 年に市との協働事業で「座敷ぼうき製作技能の伝承者の育成」にも着手しました。広報活動に努めた結果、その様子は新聞、テレビを始め、多くのメディアに取り上げていただきました。育成した伝承者は、現在「ほうき作り伝承会」という新たな団体を立ち上げ活躍しています。

他に**花壇(旧金子家住宅前・井戸脇)**や園内の**竹林(墓地内)整備**も続けています。

また水生動物や野鳥、園内の樹木などの調査も、不定期ですが行っています。調査した結果を反映させるために、園内の樹木には木製の名札を設置しました。

これらの活動は、一応グループ制をとっておりリーダーがいますが、実際は会員が皆、好奇心旺盛のため、その時々に応じて互いに教え、支え合う関係になっています。

加えて、**6 月の「難波田城公園まつり」**に参加しています。

### これから(地域に根ざして)

都市化が進む富士見市、全国一律化の中で、地域の農耕文化や在来作物などが消えつつあります。私たちが活動する難波田城資料館は地域博物館でまた公園も併設しています。そのため、いきものに関する様々な活動を行うことが可能です。私たちは難波田城資料館の応援団として、地元の文化伝承に少しでも役立てるよう、市民と市民学芸員有志とが手を携えて活動を続けていきたいと考えております。関心のある方、ぜひご参加下さい。

## ほうき作り伝承会

地元の文化を残したい(協働事業参加者)

平成 30 年度(2018)に「難波田城いきものがかり」が市と市民の協働事業の一つとして「ほうき作り伝承者育成事業」を提案し、結果、資料館と共にこの事業を行うことができました。事業参加者のうち 11 名が、更なる技能向上を目指して、資料館の支援のもと平成 31 年 3 月から「ほうき作り伝承会」として活動を開始することにしました。

技能指導は、伝承者育成事業で講師をされた、元ほうき職人の「浦野幸吉」さんです。いきものがかり時代からほうき作りを学んできた先発組が、先生から直接指導を受けています。育成事業参加を契機に学び始めた組は、先発組から指導を受けるという体制をとっており、活動は毎月第二・第四土曜日を原則としています。



先生から指導を受ける先発組

活動を始めて丸4年となりました

ほうき作り産業の最盛期は、材料生産と製品作りとは分業でしたが、私達は、材料の確保から作品作りまで、全てを自分たちで行っています。4月から8月は、材料のホウキモロコシを栽培し、材料に仕上げます(昔の農家の仕事)。冬が近づくと柄竹作りを行います。これらの間を縫って、簡単な「くくり型」から大相撲で使用されているような「本格的な手ぼうき」までを順次学んでいます。

また、座敷ぼうき作りは、この近辺、東入間地域一帯で盛んに行われてきたことから、ふじみ野市の「ほうき作り友の会」と、連携して活動しています。

かつて富士見市の産業であった座敷ぼうき

の文化伝承と周知のため、資料館と共に「ミニほうき作り講習会」の開催、ふるさと祭りでの「ほうき作り実演」や育てたい人のために「タネの配布」なども行ってきました。

また、ホウキモロコシを栽培している畑の説明板の設置や、J:COM による市の紹介番組「長つと散歩」に、ほうき作り体験の機会を提供するなど広報にも力をいれています。



ほうき作り実演・解説(富士見ふるさと祭り)

加えて、地元産のほうきが欲しいという要望に応え、市役所内の「地場産品ショップゆい」や難波田城公園売店「ちよつ蔵」でミニほうき等の販売もしています。

これから(伝統の灯りを灯し続けたい)

ふじみ野市立東台小学校では、3年生が総合学習でほうき作りに取り組み、また、富士見市立水谷小学校では総合学習「富士見市の



会員によるほうき作り勉強会

特産品『座敷ぼうき』の技術を受け継ぎ、使ってもらおう」のお手伝いをしています。

そして、可能な限り毎年新会員を迎え、地元の伝統産業であった「座敷ぼうき作り」の継承に努めると共に、現代にマッチした作品作り等、ほうき文化の伝承に取り組んでいきたいと思っています。応援よろしくをお願いします。



## 藍染めの会

### 公園内で種をつないで

難波田城公園の長屋門前の畑では2つの作物が主に育てられ種がつながっています。一つが棉、そしてもう一つが藍です。



長屋門前の畑で藍を栽培する様子

### ふるさと体験「藍の生葉染め」の実施

難波田城資料館は、2006年から一人の染織愛好家に依頼をして、年に一度「藍の生葉染め」を実施してきました。

「藍の生葉染め」は藍の葉を粉碎し、葉に含まれる藍色の素と、それを色素に変える酵素を混ぜ合わせて染めます。育てた葉をすぐに使えますが、「乾燥葉」からも染めができるらしいと毎年少しずつ余った葉を保管し続けてきました。



藍の生葉染め

### 様々な染め方への展開

2013年から、資料館職員と染織愛好家で試行錯誤を繰り返し、乾燥葉染めもできるようになりました。さらに種々の染めの技法を身につけ、体験事業にしていきました。

令和3年度にはそれらをまとめ「藍染め入門講座」が年間で実施されました。その際に

集った藍染めの愛好家達が、令和4年に会を立ち上げました。

### 染めの技法を一つずつ -絞り染めの習得-

今、月に一度、第三日曜の午前に行う会の活動では、染めの技法の一つである「絞り染め」の修得を目指しています。絞り染めとは布を糸で縫い絞り、染め液が入らない部分を作って模様を出す技法です。生葉染めの講師は、絞り染めの経験者でした。今はこの方から助言を受け、後に会員皆で教え合う、活動日の間に自習する、という形で活動しています。



糸の縫い絞り



藍の絞り染め

また、絞りの技術の習得につれ、染める布も少しずつ大きくし、テーブルセンターや、Tシャツも染めるようになってきました。

資料館の藍の栽培に協力し、自分たちで育てた藍の葉を使った染めの原料作りも、少しずつ試みています。

### これから

私たちは染めの技法を、染織愛好家の方から職人の孫弟子のような形で学んでいます。そのため、まだ伝統的な技法には疎いといえます。今後は、必要に応じて直に職人の方に教えを請うなどして、技術をさらに深めていければと考えています。



藍染めの会とふじみ手織りの会の作品。



美楽の会の作品。裁縫による衣服やタペストリーを作っています。



扇だこ保存会の作品。伝統の絵柄を中心に様々な絵柄があります。



ほうき作り保存会の作品。昔の入間東部は座敷ぼうきの産地でした。



難波田城いきものがかりの作品。自然素材による作品展示です。



令和 5 年秋季企画展  
資料館活動団体作品展(後期)  
展示案内パンフレット  
令和 5 年 11 月 18 日  
編集・発行 難波田城資料館